

# 比喩の親しみやすさと解釈多様性の構造

平知宏 (sakusha@syd.odn.ne.jp) ・ 楠見孝 (kusumi@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp)  
京都大学大学院教育学研究科 日本学術振興会

## 研究の背景と目的

### ■ 比喩表現はどのように理解されている？

比喩理解では、主題（たとえられる語）と喩辞（たとえる語）の類似性認知の過程が重要（Bowdle & Gentner, 2005; Gentner & Wolff, 1997; Tversky, 1977など）。

人生はギャンブルだ...

人生

ギャンブル

- どちらもリスクを負うものだし
- 決断しなきゃいけないものだし
- 何が起るかわからないものだし

....etc



類似性認知の強度が高いということは、主題と喩辞間に多くの共通点が発見されていることを示すと同時に、その比喩から多くの解釈が産出されうることを意味する。

### ■ 比喩から解釈がどのように出てくる？

平・中本・楠見（2007）では、親しみのある比喩は、個人の中でより多くの解釈が産出される一方で、親しみのない比喩では、親しみのある比喩に比べて、産出される解釈が少ないことを示した。

親しみのある比喩は、主題と喩辞間の類似性認知の強度が高く、理解時に多くの解釈により支えられている。一方で親しみのない比喩は、主題と喩辞間の類似性認知の強度が低いことを示している（c.f. Chiappe & Kennedy, 2001; Utsumi & Kuwabara, 2005）。

ただし、平・中本・楠見（2007）の結果は、自由記述のデータを元にした、オフラインのデータであり、比喩理解の処理プロセスを直に扱ったものではない。

### ■ 本研究の目的

「親しみのある比喩は、個人の中でより多くの解釈が産出される」「親しみのない比喩は、親しみのある比喩に比べて、産出される解釈が少ない」ということが、比喩理解の処理プロセスで生じているかどうかを、心理実験を用いて検討する。

その際、文章読解課題を用い、比喩と関連する文を読む時に要する読解時間を測定することで、比喩から産出される解釈について検討する。

## 実験

### ■ 材料（配布資料参照）

- 親しみのある比喩5文
- 親しみのない比喩5文
- 上記それぞれの比喩が適切となるような文章10個  
文章は全14文からなる短いエッセイ文。文章の第5文目は比喩文、第6文目は比喩文の解釈として最も関連のある文、第10文目は比喩文の解釈としてやや関連の弱い文で構成された。

### ■ 手続き

実験は文章読解課題と再生課題の2つからなり、さらに文章読解課題では、**初読フェイズ**と**再読フェイズ**を設け、実験参加者は実験材料となる文章を、各々2回読むよう求められた。

### 文章読解課題

- PCディスプレイ上に、実験材料となる文章を一文ずつ呈示し、キーを押すことで文が消え、次の文が呈示されるような、Self-Paced読解パラダイムを用いた。
  - 初読フェイズ時には、実験材料の文章の第5文目（比喩文）が無意味な文字列（XXXXX）として呈示され、実験参加者は、文字列に入る文の内容について自由に想像しながら読むよう求められた。
  - 初読フェイズで全ての実験材料文章を読み終えた後、偶発課題として、実験参加者は同じ文章をもう一度読むよう求められた（再読フェイズ）。
- 再読時に、実験参加者の半分を、初読時と同様第5文目が無意味な文字列として呈示される**文字列条件**、もう半分を、第5文目に文章と関連する比喩文が呈示される**比喩文条件**とに分けた。

### 再生課題

- 文章読解課題終了後、各実験材料の第5文、第6文、第10文を空欄にしたものを実験参加者に呈示し、空欄に当てはまる文を再生するよう求められた。
- 第5文に関して、文字列条件の参加者は文章読解課題時に想像した文を、比喩文条件の参加者は再読時に呈示された文を記述するよう求められた。

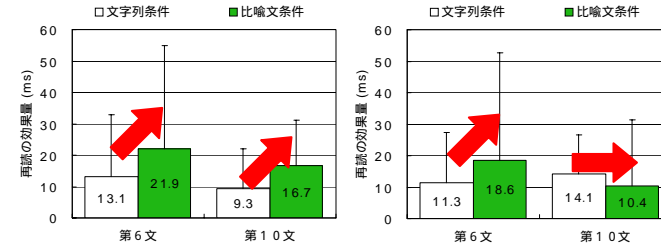
### ■ 参加者

- 日本語を母語とする大学生・大学院生47名
- 文章再読時、文字列条件23名
- 文章再読時、比喩文条件24名

## 結果と考察

### ■ 文章読解課題における読解時間

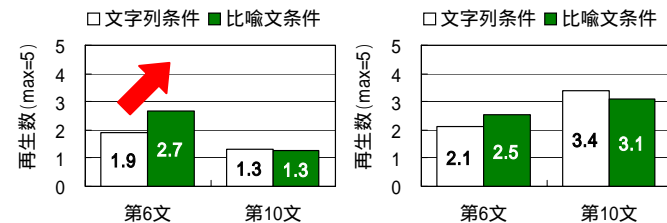
- 第6文・第10文の読解時間について、文のモーラ数で割った値を求め、その上で初読フェイズの読解時間から再読フェイズの読解時間を引いたものを、**再読の効果量**として求めた。



図：再読の効果量、およびSD  
左：親しみのある比喩 右：親しみのない比喩

- 親しみのある比喩では、比喩の解釈として最も関連する文、やや関連の弱い文の双方について再読の促進効果が見られた（ $F(1, 45) = 3.00, p < .10+$ ）。
- **親しみのある比喩は、理解時に多くの解釈を想起させることを支持。**
- 親しみのない比喩は、比喩の解釈として最も関連する文のみ、再読において促進効果を持つ（ $F(1, 45) = 4.48, p < .05^*$ ;  $F(1, 90) = 3.71, p < .10+$ ）。

### ■ 再生課題における正答数

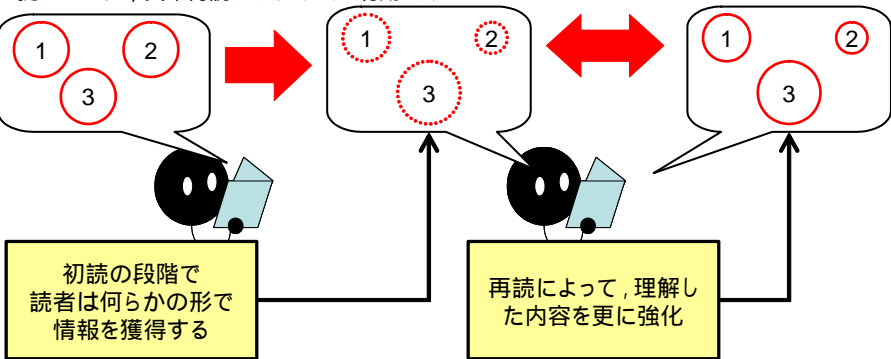


図：再生課題の成績  
左：親しみのある比喩 右：親しみのない比喩

- 親しみのある比喩を理解した時には、比喩と最も関連する文の再生成績のみが上昇した（ $F(1, 90) = 4.96, p < .05$ ）。
- 比喩文を理解したことで、**比喩と最も関連のある情報を記憶表象として形成。**
- 親しみのない比喩は、再生成績に影響は見られなかった。
- そもそも、**親しみのない比喩文は、比喩と関連するような情報を活性化させない**（Blasko & Connine, 1993など）。

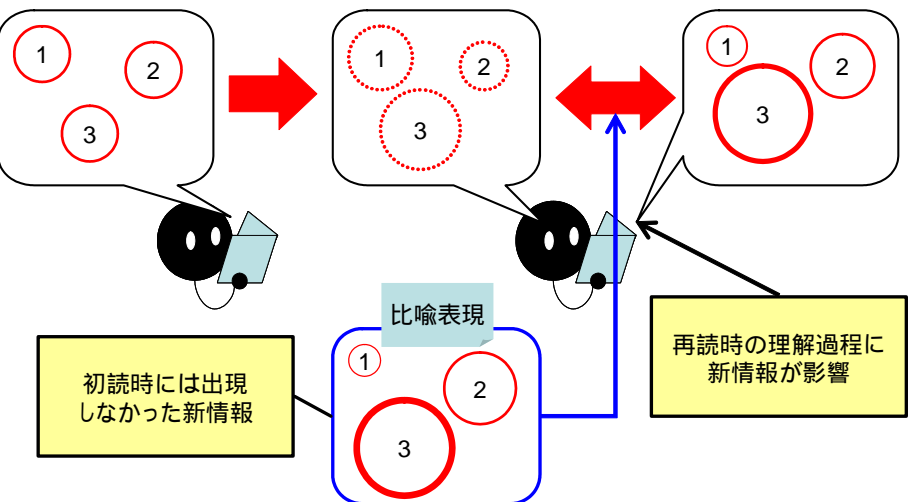
■ 文章読解過程における再読パラダイムの利用

文の読解という行為は目標指向的である (c.f. Kintsch, 1988など) 。より良い理解の達成、強固な表象 (テキストベース・状況モデルなど) の構築を行う上で、一回のみの文章読解のパラダイムよりも、個人の理解過程の中で何がどう変化するかを捉えるのに、文章再読パラダイムは有効である。



**再読のメカニズム**  
 上の例で言えば、初読時に情報 1, 情報 2, 情報 3 に対し、読者は 1, 2, 3 の順に、重要な情報として評価する。再読時には、初読時の評価を元に、さらに記憶表象などの情報を強化して評価することとなる。

この文章再読パラダイム中で起こる認知プロセスを利用することで、比喩理解による文章読解過程にあたる影響を検討することが出来る。その影響を検討することは、間接的に「比喩理解の最中で何が起きているか」を検討することにも繋がる。本研究では、「文章読解過程に比喩が与える影響」を検討するデータを検証することで、「比喩が理解されている時に、何が生じているか」を論じている。



**比喩理解の効果**  
 初読時に情報 1, 情報 2, 情報 3 に対し、読者は 1, 2, 3 の順に、重要な情報として評価した跡。再読時に比喩表現が提示される。このとき比喩表現それ自体にも、1, 2, 3 の順に重要であると評価されるような情報が含まれているような場合、再読時の評価もそのように修正される可能性がある。

■ 文章例：「結婚は冷蔵庫だ」

| 文番号 | 文  |
|-----|--|
| 1   | 幼馴染の男友達と女友達が、長い恋愛の末について入籍を果たした。  |
| 2   | 長い間2人を見てきた私は、いつ一緒になるんだろうと、ずっとヤキモキしていた。   |
| 3   | 今の私の夫に、仲の良い生活を築く2人を、早く紹介したかったのだ。   |
| 4   | 半年前に、入籍の報告を聞いた時は、私も我がごとのように喜んだものだ。   |
| 5   | <b>彼女と彼の結婚生活は、冷蔵庫のようなものだった。</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">比喩表現</span>             |
| 6   | <b>2人の結婚生活には、色々なものがつまっていたのだ。</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">比喩の解釈として最も関連する文</span> |
| 7   | ありがちな新妻の焼もちや、給料日限定の贅沢など、女友達から電話口で散々聞かされた。  |
| 8   | 2人の仲の良い生活を、私は心から祝福していた。  |
| 9   | 2人はいつまでもこんな調子なんだろうかと、私は思った。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">比喩の解釈として関連が弱い文</span>       |
| 10  | <b>だが私の予想はずれ、2人の結婚生活は、冷たくなっていったのだ。</b>   |
| 11  | 半年経った今、2人がそういう状態なのは、私としては意外だった。  |
| 12  | お互いの付き合いがそもそも長いから、それもあるのかなと、私は思った。   |
| 13  | 2人の今の生活を見て、CとDが結婚する前の生活を、私は思い返していた。  |
| 14  | 2人の生活を参考に、私は夫にたまにで良いから、優しくしてあげようと思った。  |

本研究の現時点でのまとめ

■ 解釈多様性理論の観点から...

比喩理解における親しみやすさという指標は、比喩の解釈多様性を説明するものとして捉えられてきた (Utsumi & Kuwabara, 2005; Utsumi, 2007; 平・中本・楠見, 2007) 。本研究では、親しみのある比喩が、比喩と関連する文全てに対し、読解における促進効果をもたらす一方で、**親しみのない比喩が、比喩と関連する文のうち、関連どの高いものみに促進効果をもたらしたということから、解釈多様性理論をサポートしたと言える。**

■ 比喩文と文章読解過程の関係の観点から...

本研究を、比喩文理解における解釈の構造という観点ではなく、「文章読解過程に対し比喩理解が及ぼす影響」という観点から捉えるのであれば (cf. 平・楠見, 2006; 平・中本・楠見, 2007) 、比喩文理解は文章のオンラインでの処理プロセスや、文章内容に関する記憶表象の構築に対して、明らかに影響を与えようと考えられる。

引用文献

Chiappe & Kennedy, (2001). Literal bases for metaphor and similes. *Metaphor and Symbol*, 16, 249-397.  
 Blasko & Connine, (1993). Effects of familiarity and aptness on metaphor processing. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 19, 295-308.  
 平・楠見. (2005).概念比喩の慣用性が文章読解過程に及ぼす影響. *日本認知言語学会論文集*, 5, 117-125.  
 平, (2007).第18章 比喩の親しみやすさが文章読解過程に及ぼす影響. 楠見孝(編) *メタファー研究の最前線*. ひつじ書房. p369-384.  
 平・中本・楠見. (2007).比喩理解における親しみやすさと解釈の多様性. *認知科学*, 14, 322-338.  
 Utsumi & Kuwabara, (2005). Interpretive diversity as a source of metaphor-simile distinction. *Proceedings of the 27th Annual Meeting of the Cognitive Science Society*, 2230-2235.  
 Utsumi, (2007). Interpretive diversity explains metaphor simile distinction. *Metaphor and Symbol*, 22, 291-312.